

# 国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係 米中関係と米中をめぐる国際関係

平成29年3月



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

## はしがき

本報告書は、当研究所が平成 27～28 年度外務省外交・安全保障調査研究事業（発展型総合事業）「国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係」のサブ・プロジェクトの一つとして実施してきた研究プロジェクト「米中関係と米中をめぐる国際関係」における 2 年間の成果をとりまとめたものです。

米国と中国との間の関係は、ここ数年、質的に大きく変化しています。中国の急速な台頭によって、米中関係におけるパワーの「非対称性」が縮小されたといえます。米国にとって中国は、その国際社会への影響力の大きさゆえにますます協力を模索すべき国家となり、同時に、その非妥協的な対外姿勢ゆえにますます警戒を強めるべき存在となっています。中国は、既存の国際秩序に挑戦するかのような言動や行動を近年顕著に見せ始めています。また、こうした変化に伴い、米中間の二国間関係が、より国際社会全体を巻き込んで展開していくものに変容しつつあります。それらの動向が、日本を取り巻く国際環境に多大な影響を与える以上、日本としては、その行く先がどこにあるのかを冷静に見極める必要があります。

本サブ・プロジェクトは、こうした問題意識に立って、新たな時代を迎えつつある米中関係の趨勢を分析し、さらに、そうした米中関係の動向が、国際社会全体の情勢に及ぼす波及的影響を及ぼしていくのかを検討しようとするものです。ここに収められた各論文は、その 2 年間の研究の成果です。

ここに表明されている見解はすべて執筆者個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、この研究成果が我が国の外交実践に多く寄与することを心より期待するものであります。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、並びにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

平成 29 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上 義二